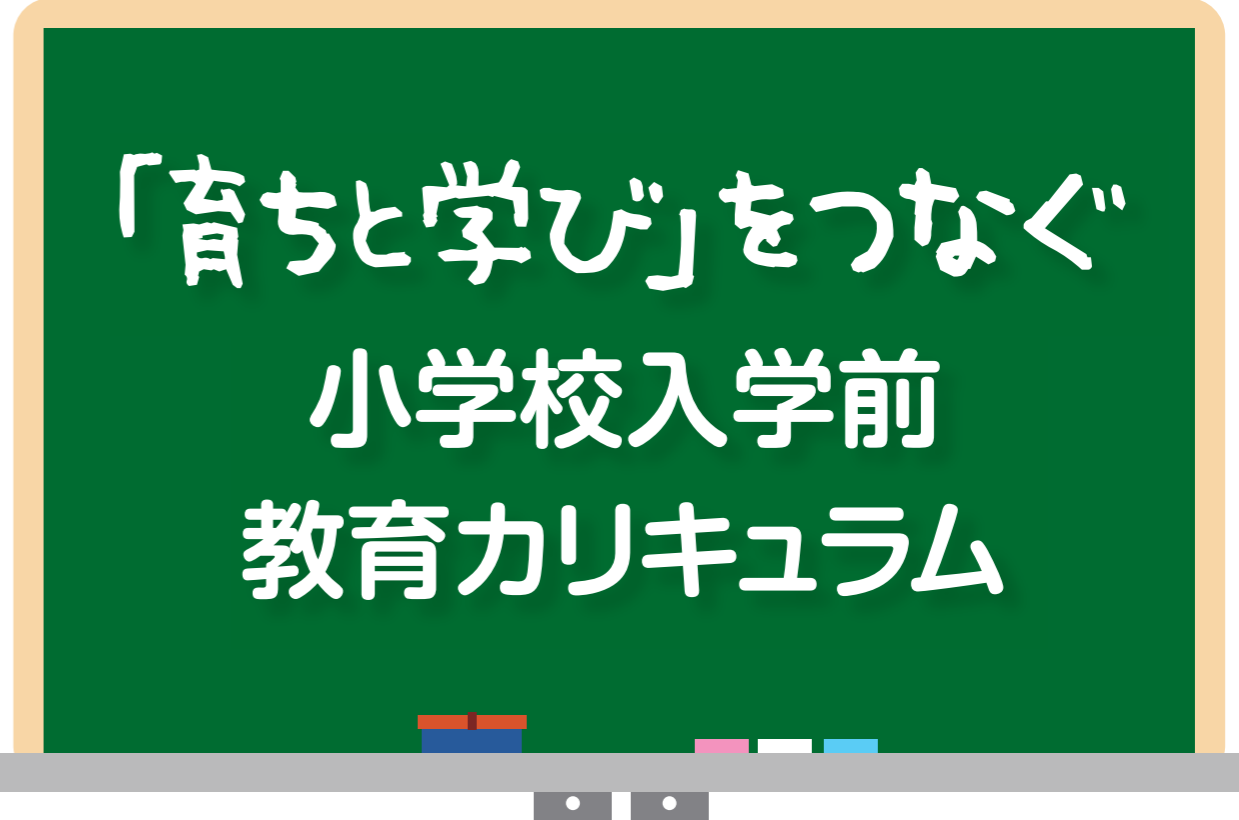




みなとときつずなび 「育ちと学び」をつなぐ 小学校入学前教育カリキュラム

みなとときつずなび



令和2年(2020年)3月

港区・港区教育委員会

令和2年(2020年)3月
港区・港区教育委員会

港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちも真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和 60 年 8 月 15 日

港 区



あいさつ

港区長 武井 雅昭

港区は、昭和期の終わりから平成の始めにかけて急激な人口減少を経験し、平成8年には人口15万人を切りました。あれから24年たった現在、区の人口は26万人を超え、毎年約3,000人の新生児が区内で生まれています。

令和の時代を生きる子どもたちが、豊かな経験を通して、学び成長し、まちいっぱい笑顔があふれるよう、区は、子育てに関連する施策に全力で取り組み、子どもの夢と健やかな成長を応援しています。

平成27年1月、子どもの育ちを支え幼児教育の質を高め伸ばしていくことを目的とした「小学校入学前教育カリキュラム」を策定し、これまでの間、各保育園、幼稚園、認定こども園、小学校での活用を促し、保育・教育の充実を図ってまいりました。

今回、幼稚園教育要領や小学校学習指導要領等の改訂に伴い、幼児の育ちと学びを確実に小学校へとつなぐため、各地区総合支所、子ども家庭支援部、教育委員会が連携し、公私立保育園、公私立幼稚園、小学校の代表者などからなる検討委員会等による検討を経て、「小学校入学前教育カリキュラム」を改訂しました。

港区ならではの質の高い幼児教育の実現に向けて、子どもたちが幼児期にふさわしい経験を十分に得られるよう、保育士・幼稚園教員、小学校教員が自らの専門性を高め、家庭や地域と連携を図ることが大変重要です。

本カリキュラムは、子どもの発達や生活に連続性をもたせるため、身に付けさせたい内容を具体化し、指導に活用していただける内容としています。

未来を担う子どもたちを育てる保育士や教員の役割は、ますます重要となっていきます。質の高い幼児教育の実現に向けて、保育士や教員の一人ひとりが改訂された本カリキュラムを理解、活用し、指導に役立て子どもの豊かな育ちにつなげていただくよう、そして、将来の港区を担う子どもたちが、地域への誇りと愛着をもって、相互に助け合いながら成長していくことを心から願っております。

國學院大學 教授 神長 美津子 委員長をはじめ、港区小学校入学前教育カリキュラム改訂検討委員会の皆様、温かな御支援、御協力を賜りました関係機関の皆様にご心より感謝申し上げます。



あいさつ

港区教育委員会 教育長 青木 康平

急速な社会構造の変革が見込まれる中、来るべき Society5.0 時代に向けて、教育や学校、教師のあり方が大きく変わろうとしています。学校教育においては、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する人材の育成が求められています。

本区では平成 26 年 10 月に港区教育ビジョンを策定し、目指す人間像として「生涯を通じて夢と生きがいをもち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する人」を掲げています。「教育の港区」の実現に向け、質の高い幼児教育を目指し、保育士や教員一人ひとりが自己研鑽を積み重ねることが重要です。

一方、幼児の育ちをめぐるっては、基本的な生活習慣や人とのかかわる力、道徳性など、幼児期に着実に身に付けなければならないことについて、様々な課題が山積しています。家庭の教育力の低下、地域社会の変容は勿論ですが、子どもを取り巻く環境が大きく変化している現在、健やかな育ちを支えていくことが、より一層求められています。

平成 30 年 4 月に全面実施された幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領において、「幼児教育において育みたい資質・能力の柱」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示され、小学校教育との円滑な接続を図ることを、大きなねらいの一つとしています。

このような中で、平成 27 年 1 月に子ども家庭支援部と教育委員会が協働して策定した、「みなときっずなび『育ちと学び』をつなぐ 小学校入学前教育カリキュラム」を、このほど改訂しました。

幼児教育から小学校教育へのさらなる円滑な接続を目指し、区内の各保育園、認定こども園、幼稚園、小学校において、改訂した本カリキュラムを活用することにより、さらに相互に見通しをもった教育を、一層、推進することができると考えます。

互いの指導への理解を深め、幼児教育から小学校教育へのより円滑な接続につながることを、心から願っております。

結びに、改訂に携わっていただきました國學院大學 教授 神長 美津子先生をはじめ、港区小学校入学前教育カリキュラム改訂検討委員会の皆様、私立保育園長会、私立幼稚園長会、区立保育園長会、区立幼稚園長会、区立小学校長会、その他関係の皆様にも厚くお礼申し上げます。

第1章 小学校入学前教育カリキュラムの改訂に当たって

1

- 1 小学校入学前教育カリキュラムとは
- 2 改訂の背景
 - (1) 国や都の状況
 - (2) 港区の状況
- 3 小学校入学前教育カリキュラムの改訂

第2章 基本的な考え方

5

- 1 小学校入学前教育カリキュラムの基本的な考え方
 - (1) 港区が目指す幼児教育の推進理念
 - (2) 保育園・幼稚園・認定こども園・小学校の連携
 - (3) 家庭と連携した質の高い幼児教育の実現
- 2 「育ちと学び」について
- 3 小学校入学までに目指す姿
 - (1) 小1問題
- 4 円滑な接続に向けて
 - (1) 三つの力の考え方と具体的な視点
 - (2) 学校教育全体で育成すべき資質・能力の三つの柱
 - (3) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
 - (4) 幼児教育から小学校教育への円滑な接続
 - (5) 接続のイメージ図

第3章 小学校入学前教育カリキュラムについて

19

- 1 小学校入学前教育カリキュラム
 - (1) 保育園・幼稚園・認定こども園で身に付けさせたい内容
 - (2) 5歳児のカリキュラムの作成におけるポイント
- 2 スタートカリキュラム
 - (1) 1年生入門期（4月から5月）のカリキュラムの例
 - 実践例1 時間配分の工夫 はじめての給食指導
 - 実践例2 港区ならではの「国際科」 単元名 たのしくあいさつ
 - 実践例3 文字指導の工夫 文字の指導
 - 実践例4 教科と教科の関連性を図った指導の工夫 ー生活科と国語科ー
大単元 「さあ がっこう たんけんだ」
 - 実践例5 幼児期の経験を生かす配慮
ー特別活動「学級活動」 学級の係をきめよう！ー

第4章 連続性・一貫性のある実践例

43

- 実践例1 リレーごっこ
- 実践例2 もうすぐ集まる時間だよ
- 実践例3 園の思い出を振り返り、みんなで話し合おう
- 実践例4 みんなで劇遊びの準備をしよう
- エピソード事例 飼育物と関わって遊ぶ中で見られた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

第5章 家庭との連携

55

- 1 家庭との連携のポイント
 - (1) 三つの力を視点にした家庭との連携のポイント
 - (2) 学級懇談会における工夫 ー園の取組例ー
- 2 特別な配慮を必要とする子どもの支援
 - (1) 就学までの準備【保育園・幼稚園・認定こども園が行うこと】
 - (2) 就学までの準備【小学校が行うこと】

資料

69

- 港区小学校入学前教育カリキュラム改訂検討委員会及びワーキングの経過
- 小学校入学前教育カリキュラム改訂検討委員会委員名簿
- 小学校入学前教育カリキュラム改訂検討委員会ワーキング委員名簿